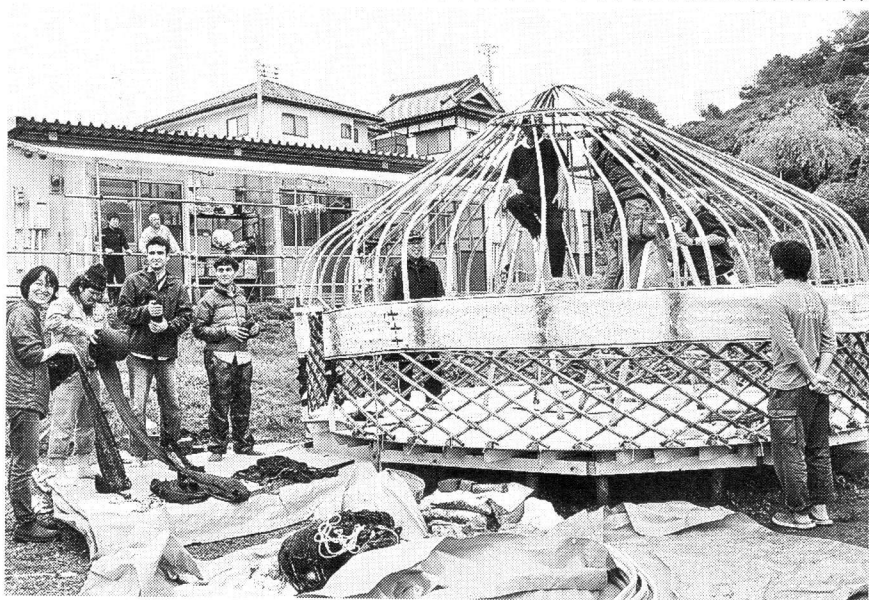


アフガニスタンから贈られたパオを組み立てる参加者



アフガンからの贈り物

友情パオ

完成間近、「交流の家」に 陸前高田

陸前高田市広田町の長洞仮設住宅で、中央アジアの遊牧民族に伝わる移動式住居「パオ」が建設されている。同仮設住宅の支援者がアフガニスタンの知人から譲り受けたもので、4日は骨組みまで仕上げ、5日に完成する見込み。今後は住民交流の場として活用される。

4日は安仲さん、駐日アフガニスタン大使館職員のバブリ・アシユラフさん(29)ら14人が同仮設住宅を訪問。住民が見守る中で建設を進め、外側の布の固定作業を残すのみとなった。

パオは直径5.5メートル、高さ3.5メートル。中央にいろりを置くスペースがある。東京でアフガニスタンからの輸入業者を営む安仲卓二さん(56)が、現地の知人から無償で譲り受けた。

同仮設住宅の村上誠二副自治会長(56)が昨夏、支援者を通じて安仲さんと知り合ったことが建設のきっかけとなった。安仲さんは「パオの作り手は現在ほとんどおらず、本来入手できるものではない。アフガニスタンの人たちが心意気くれたもの」と説明した。